

○愛知淑徳大学大学院グローバルカルチャー・ コミュニケーション研究科規程

(趣旨)

- 第1条** 愛知淑徳大学大学院グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科（以下「研究科」という。）が愛知淑徳大学大学院学則（以下「大学院学則」という。）第1条に則り、次の号に掲げる目的を達するため、教育課程、授業、研究指導、成績評価等及び運営等について、大学院学則に定めるもののほか必要な事項を定める。
- 2 この規程に定めるもののほか、研究科の教育課程等に関し必要な事項は、研究科委員会の定めるところによる。

(教育の目的)

- 第2条** 研究科は、「言語文化コース」・「交流文化コース」の2つのコースを有機的に連携させることにより、学際的そして実用的な言語の運用能力を重視し、社会科学的な情報分析能力に裏打ちされた実行力で、グローバル社会で研究・実践に積極的に携わる人材の養成をめざしている。

(教育課程編成の基本方針)

- 第3条** 博士前期課程においては学部での学修成果を踏まえて、高度な知識・技術を有する専門職業人を養成することを主眼にしている。専門領域に特化したより深い学修・研究を行うとともに、一方では専門性を多角的に検討し、また実践する広範な学修を可能にする複合的な教育課程を編成する。博士後期課程においては、前期課程での学修・研究成果を踏まえて、専門分野における研究を一層深化発展させることにより、グローバル社会の養成に応えた高度な知識・技術・見識を有する専門職業人を養成する一方、自立して研究、またそれに基づく実践活動ができる研究者を育成することを目的として、担当教員を定めて研究指導を中心にした学修・研究活動を行う教育課程を編成する。

(養成する人材像)

- 第4条** 本研究科が養成する人材像は、専攻が構成するコースごとに次のとおりとする。

(1) 言語文化コース

世界各国・各地域の言語に対する深遠な知識、異文化に対する深い知見、高度なコミュニケーション能力を持った人材を養成する。

(2) 交流文化コース

国際協力、国際教育、ツーリズム、文化とコミュニケーションなどに関する理論的研究を多様な視点・視座から行うための分析力、社会に潜む諸問題への解決策提言など社会貢献ができる実践力を持った人材を養成する。

(研究科長)

第5条 研究科に、研究科の管理運営を統括するために、研究科長を置く。

2 研究科長の選出方法については、別に定める。

(研究科委員会)

第6条 研究科の管理運営に必要な重要事項を審議するため、専任教員を構成員とする研究科委員会を置く。

2 研究科審議事項、各種委員会など研究科委員会の運営に関して必要な事項は、別に定める。研究科委員会は、研究科長が招集し、その議長となる。

3 研究科委員会は、委員（海外出張中又は休職中の者を除く。）の3分の2以上の出席がなければ、議事を開くことはできない。

4 議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。

(授業科目、単位数及び履修方法)

第7条 研究科における授業科目、単位数及び履修方法並びに研究指導は、別表のとおりとする。

(指導教員)

第8条 入学又は進学を許可された者には、指導教員を定める。

2 指導教員は、2人以上とすることができる。

3 前項の場合に必要なときは、他の研究科の教員を加えることができる。

(研究計画の提出)

第9条 入学又は進学を許可された者は、1か月以内に研究計画を作成し、所属する専攻の主任を経て研究科長に提出しなければならない。

(研究計画等の提出)

第10条 博士前期課程に入学を許可された者は、研究指導教員の指導を受けて研究題目を含む研究計画を作成し、指定の期間内に研究科長に提出し、研究科委員会の承認を得るものとする。

2 博士前期課程修了までの要件については、別に定める。

3 博士後期課程に入学または進学を許可された者は、前項の研究計画を博士論文計画書と読み替えて、同様の手続きを経るものとする。

4 博士後期課程修了までの要件については、別に定める。

(研究指導実施報告書)

第11条 博士後期課程に在籍する学生の研究指導の実績については、研究指導教員が半期ごとに研究指導実施報告書を作成し、指定の期間内に研究科長に報告するものとする。

(入学前の本学大学院における既修得単位の認定)

第12条 学生が研究科に入学する前に、本大学院において修得した単位については、博士前期課程の修了の要件となる単位として認定することができる。

2 前項による単位の認定方法については、研究科委員会の定めるところによる。

(他の研究科の授業科目の履修)

第13条 学生が他の研究科において授業科目を履修し修得した単位については、10単位を超えない範囲で、博士前期課程の修了の要件となる単位として認定することができる。

2 前項による単位の認定方法については、研究科委員会の定めるところによる。

(学部の授業科目の履修)

第14条 学生は、指導教員の承認を得て、学部の授業科目を履修することができる。ただし、これにより修得した単位については、課程修了の要件単位には含まないものとする。

(改廃)

第15条 この規程の改廃は、研究科委員会の議を経た研究科長の上申により、学長が行う。

附 則

この規程は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成21年7月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成24年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成25年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成27年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成28年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成29年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成30年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、平成31年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和3年4月1日から施行する。

附 則

この規程は、令和4年4月1日から施行する。

【令和3年度以降入学者】

別表

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科
博士前期課程交流文化コース

科 目	必 修 単位数	選 択 単位数	修了要件 ※
国際交流・観光専修	【専門科目】		専門科目のうち4単位以上選択必修
	多文化共生論特講	2	
	国際NPO-NGO論特講	2	
	国際関係論特講	2	
	ディアスポラ論特講	2	
	エスニシティ論特講	2	
	歴史遺産論特講	2	
	観光文化論特講	2	
	観光マネジメント論特講	2	
	【演習科目】		演習科目のうち4単位以上選択必修
	多文化共生論演習	2	
	国際NPO-NGO論演習	2	
	国際関係論演習	2	
	ディアスポラ論演習	2	
	エスニシティ論演習	2	
	歴史遺産論演習	2	
	観光文化論演習	2	
	観光マネジメント論演習	2	
	【課題実践】		課題実践のうち8単位以上選択必修
	多文化共生論課題実践a	2	
	多文化共生論課題実践b	2	
	多文化共生論課題実践c	2	
	多文化共生論課題実践d	2	
	国際NPO-NGO論課題実践a	2	
	国際NPO-NGO論課題実践b	2	
	国際NPO-NGO論課題実践c	2	
	国際NPO-NGO論課題実践d	2	
	国際関係論課題実践a	2	
国際関係論課題実践b	2		
国際関係論課題実践c	2		
国際関係論課題実践d	2		
ディアスポラ論課題実践a	2		
ディアスポラ論課題実践b	2		
ディアスポラ論課題実践c	2		
ディアスポラ論課題実践d	2		
エスニシティ論課題実践a	2		
エスニシティ論課題実践b	2		
エスニシティ論課題実践c	2		
エスニシティ論課題実践d	2		
歴史遺産論課題実践a	2		
歴史遺産論課題実践b	2		
歴史遺産論課題実践c	2		
歴史遺産論課題実践d	2		

科 目		必 修 単位数	選 択 単位数	修了要件 ※
	観光文化論課題実践a 観光文化論課題実践b 観光文化論課題実践c 観光文化論課題実践d 観光マネジメント論課題実践a 観光マネジメント論課題実践b 観光マネジメント論課題実践c 観光マネジメント論課題実践d		2 2 2 2 2 2 2 2	
	【専門科目】 レトリック特講 言語とコミュニケーション特講 メディア理論特講 異文化コミュニケーション論特講 日本文化研究特講 ビジネスコミュニケーション論特講		2 2 2 2 2 2	専門科目のうち4単位以上選択必修
	【演習科目】 レトリック演習 言語とコミュニケーション演習 メディア理論演習 異文化コミュニケーション論演習 日本文化研究演習 ビジネスコミュニケーション論演習		2 2 2 2 2 2	演習科目のうち4単位以上選択必修
グ ロ ー バ ル ス タ デ ィ ー ズ 専 修	【課題実践】 レトリック課題実践a レトリック課題実践b レトリック課題実践c レトリック課題実践d 言語とコミュニケーション課題実践a 言語とコミュニケーション課題実践b 言語とコミュニケーション課題実践c 言語とコミュニケーション課題実践d メディア理論課題実践a メディア理論課題実践b メディア理論課題実践c メディア理論課題実践d 異文化コミュニケーション論課題実践a 異文化コミュニケーション論課題実践b 異文化コミュニケーション論課題実践c 異文化コミュニケーション論課題実践d 日本文化研究課題実践a 日本文化研究課題実践b 日本文化研究課題実践c 日本文化研究課題実践d ビジネスコミュニケーション論課題実践a ビジネスコミュニケーション論課題実践b ビジネスコミュニケーション論課題実践c ビジネスコミュニケーション論課題実践d		2 2	課題実践のうち8単位以上選択必修

科 目	必 修 単位数	選 択 単位数	修了要件 ※
【研修科目】 国際社会貢献実践演習(短期) 国際社会貢献実践演習(長期) 地域文化交流研修(短期) 地域文化交流研修(長期)		4 6 4 6	修士論文非提出者は、研修科目のうち4単位以上必修
【コース関連科目】 ジェンダーと開発 地域文化交流 ビジネスプレゼンテーション グローバルビジネス		2 2 2 2	コース関連科目のうち2単位以上選択必修
【共通関連科目】 調査技法 プレゼンテーション技法		2 2	

※ 前期課程修了要件

グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(交流文化コース)を修了するためには、2年以上在学して、所属専修の専門科目4単位以上、所属専修の演習科目4単位以上、指導教員の課題実践8単位以上、所属コース関連科目2単位以上を含む30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。なお、30単位にはグローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(言語文化コース)の開設科目を含むことができる。また、修士論文を提出しない者は、研修科目(レポート提出を義務づける)4単位を含む計34単位以上修得しなくてはならない。この場合も、34単位には、グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(言語文化コース)の開設科目を含むことができる。

【令和3年度以降入学者】

別表

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科
博士前期課程言語文化コース

科 目		必 修 単位数	選 択 単位数	修了要件 ※	
日本語・ 日本語教育専修	【専門科目】			専門科目のうち4単位以上選択必修	
	日本語教育特講		2		
	日本語学特講		2		
	日本語文法特講		2		
	【演習科目】			演習科目のうち4単位以上選択必修	
	日本語教育演習		2		
	日本語学演習		2		
	日本語文法演習		2		
	【課題実践】				課題実践のうち8単位以上選択必修
	日本語教育課題実践a		2		
	日本語教育課題実践b		2		
	日本語教育課題実践c		2		
日本語教育課題実践d		2			
総合英語専修	【専門科目】			専門科目のうち4単位以上選択必修	
	英語統語論特講		2		
	英語意味論特講		2		
	英語音声学特講		2		
	英語形態論特講		2		
	英語教育特講		2		
	アメリカ文学特講		2		
	イギリス文学特講		2		
	表象文化特講		2		
	アイルランド文学特講		2		
	言語獲得論特講		2		
	【演習科目】				演習科目のうち4単位以上選択必修
	英語統語論演習		2		
	英語意味論演習		2		
	英語音声学演習		2		
	英語形態論演習		2		
	英語教育演習		2		
	アメリカ文学演習		2		
	イギリス文学演習		2		
	表象文化演習		2		
	アイルランド文学演習		2		
	言語獲得論演習		2		
	【課題実践】				課題実践のうち8単位以上選択必修
	英語統語論課題実践a		2		
	英語統語論課題実践b		2		
	英語統語論課題実践c		2		
	英語統語論課題実践d		2		
英語意味論課題実践a		2			
英語意味論課題実践b		2			
英語意味論課題実践c		2			
英語意味論課題実践d		2			

科 目		必 修 単位数	選 択 単位数	修了要件 ※
	英語音声学課題実践a		2	
	英語音声学課題実践b		2	
	英語音声学課題実践c		2	
	英語音声学課題実践d		2	
	英語形態論課題実践a		2	
	英語形態論課題実践b		2	
	英語形態論課題実践c		2	
	英語形態論課題実践d		2	
	英語教育課題実践a		2	
	英語教育課題実践b		2	
	英語教育課題実践c		2	
	英語教育課題実践d		2	
	アメリカ文学課題実践a		2	
	アメリカ文学課題実践b		2	
	アメリカ文学課題実践c		2	
	アメリカ文学課題実践d		2	
	イギリス文学課題実践a		2	
	イギリス文学課題実践b		2	
	イギリス文学課題実践c		2	
	イギリス文学課題実践d		2	
	表象文化課題実践a		2	
	表象文化課題実践b		2	
	表象文化課題実践c		2	
	表象文化課題実践d		2	
	アイルランド文学課題実践a		2	
	アイルランド文学課題実践b		2	
	アイルランド文学課題実践c		2	
	アイルランド文学課題実践d		2	
	言語獲得論課題実践a		2	
	言語獲得論課題実践b		2	
	言語獲得論課題実践c		2	
	言語獲得論課題実践d		2	
東 ア ジ ア 言 語 文 化 専 修	【専門科目】			専門科目のうち4単位以上選 択必修
	中国語教育特講		2	
	日中比較言語学特講		2	
	アジア比較文化特講		2	演習科目のうち4単位以上選 択必修
	【演習科目】			
	中国語教育演習		2	
	日中比較言語学演習		2	
	アジア比較文化演習		2	課題実践のうち8単位以上選 択必修
	【課題実践】			
	中国語教育課題実践a		2	
	中国語教育課題実践b		2	
	中国語教育課題実践c		2	
	中国語教育課題実践d		2	
	日中比較言語学課題実践a		2	
	日中比較言語学課題実践b		2	
日中比較言語学課題実践c		2		
日中比較言語学課題実践d		2		
アジア比較文化課題実践a		2		
アジア比較文化課題実践b		2		
アジア比較文化課題実践c		2		
アジア比較文化課題実践d		2		

科 目	必 修 単位数	選 択 単位数	修了要件 ※
【研修科目】 外国語教育実践演習(短期) 外国語教育実践演習Ⅰ(長期) 外国語教育実践演習Ⅱ(長期) 言語文化研修(短期) 言語文化研修(長期)		4 6 6 4 6	修士論文非提出者は、研修科目のうち4単位以上必修
【コース関連科目】 英語教授法 文芸翻訳 身体文化論		2 2 2	
【共通関連科目】 調査技法 プレゼンテーション技法		2 2	

※ 前期課程修了要件

グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(言語文化コース)を修了するためには、2年以上在学して、所属専修の専門科目4単位以上、所属専修の演習科目4単位以上、指導教員の課題実践8単位以上、所属コース関連科目2単位以上を含む30単位以上を修得し、必要な研究指導を受けたうえで、修士論文の審査及び試験に合格しなければならない。なお、30単位にはグローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(交流文化コース)の開設科目を含むことができる。また、修士論文を提出しない者は、研修科目(レポート提出を義務づける)4単位を含む計34単位以上修得しなくてはならない。この場合も、34単位には、グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士前期課程(交流文化コース)の開設科目を含むことができる。

【令和2年度以降入学者】

別表

グローバルカルチャー・コミュニケーション研究科
博士後期課程

科 目		必 修 単位数	選 択 単位数	修了要件 ※
言語文化コース	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VI(1)a		2	各年次4単位以上、合計12単位以上選択必修
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VI(1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VI(2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VI(2)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VI(3)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VI(3)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究IX(1)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究IX(1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究IX(2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究IX(2)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究IX(3)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究IX(3)b		2	
交流文化コース	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 I (1)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 I (1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 I (2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 I (2)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 I (3)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 I (3)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 II (1)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 II (1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 II (2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 II (2)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 II (3)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 II (3)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 III (1)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 III (1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 III (2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 III (2)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 III (3)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 III (3)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IV (1)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IV (1)b		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IV (2)a		2	
	グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IV (2)b		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IV (3)a		2		
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 IV (3)b		2		
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 V (1)a		2		
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 V (1)b		2		
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 V (2)a		2		
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究 V (2)b		2		

科 目	必 修 単位数	選 択 単位数	修了要件 ※
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究V(3)a		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究V(3)b		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VII(1)a		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VII(1)b		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VII(2)a		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VII(2)b		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VII(3)a		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VII(3)b		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VIII(1)a		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VIII(1)b		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VIII(2)a		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VIII(2)b		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VIII(3)a		2	
グローバルカルチャー・コミュニケーション特殊研究VIII(3)b		2	

※ 後期課程修了要件

グローバルカルチャー・コミュニケーション専攻博士後期課程を修了するためには、3年以上在学して上記科目中、指導教員(副指導教員を除く)の特殊研究を12単位以上修得し、必要な研究指導を受けたうえで、博士論文の審査および試験に合格しなければならない。